

令和3年3月19日

東員町議会

議長 島田正彦 様

総務建設常任委員会

委員長 伊藤治雄

令和2年度総務建設常任委員会活動報告（中間）について

令和2年度及び3年度の活動方針を「補助金等の研究」と「公共交通のあり方」と定め、委員会を現在までに16回開催し研究、視察、検討を行っています。

[所管する業務]

議会・総務課・政策課・財政課・税務課・産業課・建設課・上下水道課・会計課及び他の委員会に属さない事務

1. 令和2年度の活動概要

1-1 補助金等の研究

町行財政改革検討委員会の意見を踏まえ、行財政の改革の必要性を認識し、行政側より議会に提出された「補助金等見直し調書」を基に、

- ・減額、廃止、継続の判断がなされた既存の62の補助金などの事業
- ・新たに提案された「(仮称)地域コミュニティ再生応援交付金」

について、何故そのような結論に至ったのか、趣旨や内容を深く掘り下げて考える「勉強会」を行い、令和2年1月15日に「補助金等の見直しについて」(別紙)を議長を通じ町長に提出しました。

1-2 公共交通のあり方

町内の公共交通は、北勢線・路線バス・オレンジバスにより成り立っています。しかし、費用対効果も含め高齢化が進み、よりきめ細かなサービスの提供が必要となってきており、よりよき交通体制を目指し検討を行いました。

町民の通勤・通学の経路拠点であり、東西自由通路により飛躍的に利便性が向上した「桑名駅」と、自動運転バスの導入実験などMaaS推進室を設置し、将来の公共交通づくりに取り組んでいる桑名市役所に伺い研修しました。

そこで、委員会として、広域連携の必要性や更なる桑名駅周辺の利便性向上について、桑名市に要望しました。

なお、本視察に関しましては、各委員から「研修報告書」（別紙）が提出されておりますので、各意見を参考に平成3年度に検討します。

【注釈】 MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービスの略語）とは、出発地から目的地までの移動を、効率よく・快適で・便利にできる、新たな交通サービス手段を意味します。

1-3 その他

コロナ禍における社会経済状況は、非常に厳しい状況が続いていると考えられます。いつまで続くか分からない新型コロナウイルス感染症の影響下で、町財政も非常に厳しいですが、家庭や事業所はそれ以上に大変な状況下にあると思います。

そこで、町内全域の家庭や事業所に幅広く影響を及ぼす上下水道料金を無料化にすることにより、家庭に対する生活支援と事業所に対する固定費の軽減が図られるため、政府が検討している第三次補正予算中の経済対策の一環としての地方創生臨時交付金制度を活用するなり、内部留保資金など独自の財源により減免措置を講じるよう、令和3年2月5日に「上下水道料金の減免について」（別紙）を議長を通じ町長に提出しました。

2. 令和3年度の活動計画

2-1 補助金等の研究

限りある予算の範囲で、最も有効な補助金などの事業のあり方や今回の見直しの対象とならなかった事業について委員会ですらに検討します。

また、委託料についてもその必要性などを研究し、「暮らしやすい地域づくり」に向けた支援策を取りまとめます。

2-2 公共交通のあり方

類似した交通課題や乗り合いタクシーなど新しい外出支援対策などに取り組んでいる先進地を視察します。

その後、入手したさまざまな知見や見聞を参考にして、高齢化社会の中で本町に適した手法等を検討し、持続可能な「新しい移動手段」について研究し提言してまいります。

2-3 その他

変革する社会経済状況に即し、必要に応じ所管する事務について、適切な提言や要望を町長に提出し、「住みよい東員町づくり」に努めてまいります。